

経済マンスリー

[アジア]

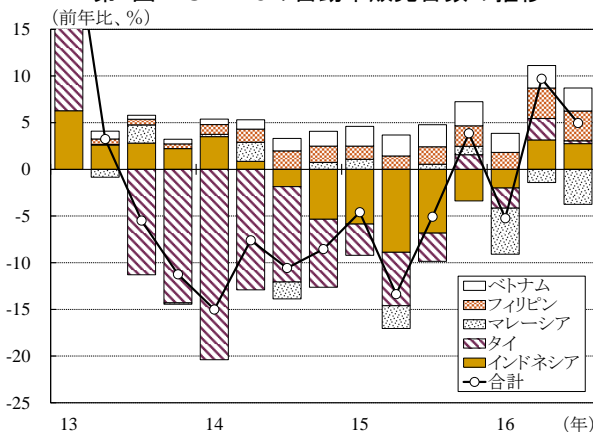
金融・財政政策の効果が ASEAN の自動車市場の回復をサポート

アジアでは、ASEAN を中心に個人消費が堅調であり、その拡大ペースは徐々に高まっている。耐久財消費の主力である自動車販売台数は足元で増勢に転じており、消費回復の一因となっているといえる（第 1 図）。国別にみると、フィリピンやベトナムで所得水準の向上に伴い自動車の普及が進んでおり好調な伸びが続くほか、ASEAN で第 1、2 位の市場規模をもつインドネシアとタイも持ち直しが鮮明である。後述する通り、個別のマイナス要因の一巡や中銀・政府の金融・財政政策によるサポートを受け、インフレの低位安定による実質所得の改善が消費の拡大につながり易くなっていると考えられる。

まず、インドネシアでは、2013 年半ばから 2015 年初にかけて政府が段階的に補助金を削減したことでガソリン価格が上昇していたことや、通貨安に伴う輸入車価格の上昇が自動車販売の下押し要因となっていた。足元では、原油価格が 1 バレル 40 ドル台で推移し国内市況が落ち着きを取り戻しているほか、通貨価値の安定からインフレ率も鈍化してきており、政府が昨年末から個人所得減税などを含む景気刺激策を相次ぎ打ち出していることも支えとなって、4-6 月期の販売台数が 2 年ぶりにプラスとなった。先行き、政府が自動車ローン規制を緩和する方針を表明しているほか、中銀も年初来 5 度目となる利下げを実施（9 月 23 日、第 2 図）しており、更なる消費の追い風となるとみられる。

タイでは、2012 年末まで実施された政府の自動車購入支援策による需要先食いの反動に加え、2014 年以降の政局の混乱や輸出不振を背景とする消費者マインド悪化や賃金の伸び悩みを受け自動車販売は低迷していた。足元ではこうした反動減が一巡したことに加え、家計向け補助金など政府の財政政策が所得の支えとなり、販売台数は増勢に転じている。中銀が政策金利を史上最低近辺で据え置くなか、貸出金利が低下し自動車ローン残高も 2 年ぶりに増加に転じており、政府の財政政策の効果も継続することから、持ち直しの動きはこの先も維持されるとみられる。

第1図: ASEAN5の自動車販売台数の推移



(注) 直近は8月まで。

(資料) 各国統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図: ASEAN主要国の政策金利の推移



(資料) 各国統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 土屋 祐真 yuuma_tsuchiya@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。